

立憲民主党 参議院議員

岸まきこ

とともに

**全世代が
安心して暮らせる
社会保障制度を
確立しよう！**

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の擁立を決定しました。

岸まきこ 公式サイト
kishimakiko.com/
岸まきこ 検索

2月28日～3月2日にかけて、地連別夏期交流に向けた「座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座」が東京・林野会館で開催された。埼玉大学名誉教授の伊藤修先生から基調講演をいただいた。



▲社会の仕組みについて講演する講師の伊藤修先生

社会の仕組みを変えるには 青年女性へ問いかけ

現在の日本社会では純金融資産が5億円以上ある超富裕層から3千万以下のマス層まで幅広くいる。本養成講座の参加者のほとんどはマス層にあたるが、この社会には超富裕層も実際にいて、その超富裕層は1億円の壁が存在しておきお金を稼ぐことは悪いことではないが稼いでいる人は税の割合が低くなる制度がある。このオカシイ制度があることによって日本の経済というものを閉塞している実態があるのではないだろうか。この実態があることで、日本のGDPが下落し続けており日本社会経済が悪くなっている。それに付随して日本全体の人口も減少の一途をたどって

おだずな

第1号
2025年3月2日
発行
伊藤郁弥

おり、その背景には低所得者が増え、婚姻率が20～30%になっていることが日本社会全体の破壊に響いている。基調講演を聞き、このオカシイ制度があることを初めて知った仲間も多くいるだろう。今を生きる我々青年女性はこのオカシイ制度を改善するために団結してたたかうべきではないか。今を生きる我々青年女性はこのオカシイ制度を改善するために団結してたたかうべきではないか。今を生きる我々青年女性はこのオカシイ制度を改善するために団結してたたかうべきではないか。



前歴換算は適正か 点検・交渉強化を

座長養成講座では、それぞれの職場で起きている厳しい実態が議論された。ある分教会では、「ここ最近の状況として中途採用の

職員が多く入ってきている実態がある。そこで重要なのは前歴換算、中途採用で入ってくるということ。前の職場より高い賃金や良い福利厚生条件があるから入ってくる方が多いだろう。そこで前歴換算を当局が適正に行わないことにより、賃金も前の職場と変わらないもしくは低くなってしまう、職員のモチベーションを大い

に下げってしまうことにより、劣悪な職場環境を生み出してしまふことになるだろう。そこで組合としてそのような職員の生活を守ることにし、中途採用の職員が離職せず健康で働き続けられる。いまや中途採用の職員も貴重な人材であるため職場全体の環境改善につなげていきたいと述べた。

声を届ける 心をつなぐ

組織内議員の
国会議員の
活動報告



岸真紀子 参議院議員（比例代表）に聞く

まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろな方のお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いたり、現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論戦に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、鬼木誠参議院議員と一緒に子ども家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはず。通常国会では、会計年度任用職員の勤労手当支給と賃金改定の4月遡及など、制度が

あいまだった点を明確にさせました。また、マイナンバー制度の「自治体」の課題では、デジタル庁や厚労省など自治体の現場を知らない省庁に、具体的な問題解決を求め、改善しました。他方で、入管法改正、LGBT理解増進法など、人権を踏みにじる法案の成立は残念です。臨時国会では、給与法改正、補正予算、インボイス制度、マイナンバーカードに伴う健康保険証の廃止などが争点です。

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。

教宣新聞

第1号
2025年3月2日
発行
土岐市編集部

閉塞感と賃金格差

労働者に無理を強いる日本



講演を行う伊藤修先生

富裕層と貧困層の格差是正を訴える

2月28日、東京の林野会館で伊藤修先生の講演が行われました。テーマは、「閉塞する社会を変えよう」

講演では、賃金格差が社会の不平等を助長し、経済的な閉塞感を生み出していると指摘しました。その中で、経済格差の要因を二つ挙げていました。

全世代が
安心して暮らせる
社会保障制度を
確立しよう！

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の持立を決定しました。

岸まきこ 公式サイト
kishimakiko.com/

岸まきこ 検索



一つ目は、労働者に不利なコスト削減です。

賃下げや人員削減など労働者に無理を強いるコスト削減を続けることで経済衰退を招くと指摘していました。

現在、日本の人口は百万人ペースで減少しており、婚姻率も低下しています。そこには賃金格差が大きな影響を与えています。その解決には労働者の団結が不可欠です。雇用者は強い立場であるため、労働者は団結によってのみ対等に近づけます。労働者の対等な立場を守る労働組合の意義や必要性を再認識することができる研修でした。

みんなでつくる構成詩



二月二十八日から三月二日にかけて、音楽活動家養成講座が開催されました。音楽活動家の活動の中には「構成詩」というもの

▲歌詞について討論している講座受講者の様子

があります。構成詩とは、複数の人々が詩を朗読し、対話のような形式で進めることで、多面的な表現を実現する詩の形式です。音楽、効果音、スライド、照明などの視覚的・聴覚的な要素を取り入れ、詩の持つ感情やメッセージを豊かに表現します。構成詩は多くの人が協力して作り上げるものです。集会の演説や闘争報告などの一人の

表現とは異なり、多くの人の気持ちを表現することで聴き手に強いインパクトを与えます。

今回の講座では、歌詞作成に取り組んでいました。職場での悩みを出し合い、考えを共有することで、共感できる歌詞作りを行っていました。

構成詩の制作過程の協力と共感の重要性が、組合活動の本質と感じました。

声を届ける 心をつなぐ

組織内
国会議員の
活動報告



岸真紀子 参議院議員（比例代表）に聞く
まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろあいまいだった点を明確にさせまいという方のお話を聞いたり、国会見学にきていただき意見交換会を開いた「総点検」の課題では、デジタル庁や厚労省など自治体の現場を知らない省庁に、具体的な問題解決を求め、改善しました。他方で、入管法改正、LGBT理解増進法など、人権を踏みにじる法案の成立は残念です。

臨時国会では、給与法改正、補正予算、インボイス制度、マイナンバーカードに伴う健康保険証の廃止などが争点です。

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。

教宣新聞

第1号
2025年3月2日
発行
金見 翔太

貧困化路線 脱却をめざせ

人口減少の原因は経済格差



▲現代社会の歪みを明らかにする伊藤氏

2月28日(金) 東京・林野会館で、埼玉大学・伊藤修氏による「閉塞する社会を変える方法」と題した基調講演が行われた。

現在の社会は、資本が労働者に無理を強いる「合理化」一辺倒で利潤を最大化してきた弊害が生じている。賃下げや人員削減、労働時間の延長はその最たるものだ。また、純金融資産の日本の平均額は2千877万円であるが、世帯の約8割を占める同資産3千万円以下の平均で見ると、わずか156万円しかない。いかに資本家と労働者の格差が拡大しているかが数字で示された。格差を是正し、子どもを産み育てられる環境を整備しなければ、人口も年1000

万人減少ペースになることが現実化しかねない。

これらを改善するためには、労働者の賃上げ、やりがい追求できる職場の余裕を獲得する必要がある。また、金融所得課税など「応能原則」を社会に根付かせることも必要だ。そのことが、貧困化路線を脱却し、より質の高い社会の実現につながっていく。しかし、私たち労働者は一人では闘えない。雇う側は強い立場にある。「人間としての対等」を実現するには労働者は団結するしかない。労働組合運動の社会的意義も確認できる貴重な講演となった。

座長養成講座

ともに闘う仲間を増やすために



座長養成講座では、自身の生活・職場環境について積極的に討論が行われた。基調講演でも触れられたねじ曲がったモラルである。

▲これからの労働運動を担う未来のリーダーたち

声を届ける 心をつなぐ

国会議員の
活動報告



岸真紀子 参議院議員(比例代表)に聞く

まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろなお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いたり、現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論戦に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、鬼木誠参議院議員と一緒に子ども家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはず。通常国会では、会計年度任用職員の勤勉手当支給と賃金改定の4月適及など、制度が

る「自己責任」論は公務職場にも波及している。労働の過密化や労働時間の延長が「早く帰りたいので」

「自発的にサービス残業している仲間もいる」といった実態を生み出していることが確認された。そして、その根本にはどの職場でも続けられている人員削減攻撃がある。民間企業と同じように私たち公務

労働者も様々な合理化攻撃を受けている。当局は私たちの業務内容を完全に把握できていない。「仕事だからなんとかしないといけない」、そう思わされてしまふことに対して疑問を持つことはできるだろうか。

まずは、単組での生活・職場実態点検を通して、ともに闘う仲間をつくることが求められている。

夏期交ロード

第1号
2025年3月2日
発行 佐々木悠介
編集 佐々木悠介

養成講座

閉塞する社会を変える方向は

夏期交に向け課題を共有

自治労中央本部青年部・女性部は、2月28日～3月2日に、「座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座」を開催した。今夏の地連別夏期交流集会を担う役員を養成するため、林野会館(東京都)に全国から80人が結集し、学習と交流が図られた。



▲伊藤修名誉教授による基調講演

座長など担い手を養成
伊藤修埼玉大学名誉教授より、「閉塞する社会を変える方向」として其講演を受けた。日本の平均所得の国際地位低下は、労働者に無理を強いる社会システムの影響だと分析し、社会変革の必要性を訴えた。当面は、効率化、低コスト依存の貧困化路線から脱却し、賃上げや公助による質の高い社会へ軌道修正を求める。根本的には、私益追求から社会の利益を追求する社会主義的政策実現が必要と述べた。

講演後には分散会が行われ、基調講演の内容を掘り下げ、各地の実態が共有された。地域手当による地域間の賃金格差拡大や会計年度任用職員の業務増大、そして休退職する仲間など疲弊する職場の課題が報告された。

音楽活動・教宣にも力
音楽班では、労働歌の歌唱練習に加え、楽器を使用した演奏が行われた。教宣班では、菊池源太宮城県本部書記を講師に、機関紙づくりのポイントを学習した。受講者全員が、取材を行い、記事を作成し、機関紙を完成させた。

夏期交に向けて
夏期交の成功には、各地での計画的な取り組みが不可欠になる。事前・事後の学習会や単組オルグなどを通じて、参加者の結集と学びの共有を図ろう。

立憲民主党 参議院議員

岸まきこ

とともに

全世代が
安心して暮らせる
社会保障制度を
確立しよう!

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の持立を決定しました。

岸まきこ 公式サイト
kishimakiko.com/
岸まきこ 検索

ワンチームで結集を

新潟県から青年3名参加



学びと夏期交への決意を紹介する。役職は県本部青年部の新年度のもの。

○関川貴大書記長(新潟市職) Ⅱ他県との資金運用の

▲新潟県の参加者(左から) 佐々木・関川・市川

違いに気づき、要求の題材を得た。各単組の仲間に会いに行くことで、直接参加を呼びかける。県内学習会で労働歌を歌い、歌詞に込められた想いを伝えたい。

○市川諒副部長(加茂市職) Ⅱ座長として、分散会の話題の掘り下げ方を学んだ。職種別分散会は、同じ業務でも各地で方法の違いが明らかになる。固くとならず、他県の仲間との

交流を楽しんでほしい。

○佐々木悠介特別常任委員(聖籠町職) Ⅱ教宣紙の目的を学び、実践できた。地連幹事経験者として、運営のバックアップも図りたい。意義を伝え、自単組から参加の追求をする。

夏期交は山形県開催
東北地連夏期交流集会は6月6日～8日に、山形県で開催する。県内全単組から参加者を送り出そう。

声を届ける 心をつなぐ

議員の
国会活動
内閣報告



岸真紀子 参議院議員(比例代表)に聞く

まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろなお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いた。現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論戦に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、衆議院議員と一緒にも家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはず。通常国会では、会計年度任用職員の勤勉手当支給と賃金改定の4月遡及など、制度が

あいまだった点を明確にさせました。また、マイナンバー制度の「自治体総点検」の課題では、デジタル庁や厚労省など自治体の現場を知らない省庁に、具体的な問題解決を求め、改善しました。他方で、入管法改正、LGBT理解増進法など、人権を踏みにじる法案の成立は残念です。臨時国会では、給与法改正、補正予算、インボイス制度、マイナンバーカードに伴う健康保険証の廃止などが争点です。

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。

教宣新聞

第1号
2025年3月2日
発行
佐藤 智美

低コスト依存からの脱却

社会構造の問題や少子化に言及



▲講師の伊藤修さん（埼玉大学名誉教授）

地連別の夏期交流集会の成功に向けて、自治労本部青年部・女性部は「座長・音楽活動家、教宣担当者養成講座を開催した。2月28日から3月2日にかけて林野会館（東京）を会場に行い、全国から67人が参加した。

伊藤教授より、社会が抱える問題について講演をいただいた。一般的には年収が上がるに従って税率が高くなる。しかし、年収1億円を超えると逆に税金が安くなるというおかしな現象が日本にはある。日本の構造をみると、一番多いのが純金融資産3千万円以下の世帯で、全世帯の78%であり賃金労働者や給与所得者である。一方で富裕層は金融所得が多

く、勤労所得よりも税率が安い。政治に働きかける力も強く、権力支配につながりやすい。

少子化の一番の原因は経済問題である。非正規・低所得層の婚姻率は20〜30%低いというデータがある。また、ライフワークバランス上、子育てと仕事両立できない環境も原因となっている。

日本の経済は衰えており、給料が上がらない。効率化や低コスト依存の貧困化路線から、より質の高い社会へ軌道変更を迫られている。講演は、真の社会主義について考えるきっかけとなるものだった。

組合員に豊富な示唆を

機関紙の目的を再確認



座長養成講座では、座長任務の基礎を学んだ後、分散会を行った。職場の課題を持ち寄り、共通部分を討

▲座長養成講座の活発な議論の様子。

声を届ける 心をつなぐ

議員の活動報告



岸真紀子 参議院議員（比例代表）に聞く

まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろな方のお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いたり、現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論戦に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、鬼木誠参議院議員と一緒に子ども家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはずはです。通常国会では、会計年度任用職員の勤労手当支給と賃金改定の4月遡及など、制度が

あいまだった点を明確にさせました。また、マイナンバー制度の「自治体総点検」の課題では、デジタル庁や厚労省など自治体の現場を知らない省庁に、具体的な問題解決を求め、改善しました。他方で、入管法改正、LGBT理解増進法など、人権を踏みにじる法案の成立は残念です。臨時国会では、給与法改正、補正予算、インボイス制度、マイナンバーカードに伴う健康保険証の廃止などが争点です。

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。

論した。子の看護休暇について、「小学生までの自治体が多いため中学生までに延長すべき」「判断できる書類の添付が必要な自治体がある」などの課題を共有した。音楽活動家養成講座では、職場の課題をテーマに、組合歌「グッバイオーバーワーク」の歌詞を一人ずつ作成し、発表した。和気あいあいとした雰囲気です。全国的仲間との討論で学んだことを今後の活動に活かしてほしい。

かんかない新聞

第1号
2025年3月2日
発行
山本 志保

日本の持続可能な成長のために

伊藤修先生が提唱



▲講演する伊藤修先生

自治労中央本部青年部・女性部は2月28日から3月2日に「自治労青年女性夏期交流集会・座長・音楽活動家・教員担立者養成講座」を開催した。それに先立ち、埼玉大学名誉教授の伊藤修先生から「閉塞する社会を変える方向」というテーマで基調講演をいただいた。

立憲民主党 参議院議員

岸まきこ

とともに

全世代が
安心して暮らせる
社会保障制度を
確立しよう！

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の持立を決定しました。

岸まきこ 公式サイト
kishimakiko.com/
岸まきこ 検索

日本の急速な経済発展は個人が相当の労力と努力、時には犠牲を払ったからこその結果。その結果、過度な負担が労働力の低下、出生率の低下、メンタルヘルスの問題につながり、日本経済は停滞、衰退を続けている。実際、30年日本のGDP世界シェアは18%からわずか4%にまで衰退している。「個

人に無理をさせて成長し、個人に無理をさせて衰退したのが日本」だと伊藤修先生はいう。

真の成長を遂げるためには、新たな視点が必要である。個人の力だけで経済成長を達成しようとするのは現実的ではない。助け合いや協力こそが効率的であり、全体の生産性が高まるのではないか。助け合いは、団結力の強化につながる。この団結力こそが日本の経済成長の大きな力になる。

今後、青年部、女性部が現状を理解し、団結の重要性を再認識することが期待される。

組合員はなぜ歌う

超過労働に対する思いを歌に



音楽活動を通して団合力を高めることを目的とした音楽活動養成講座「グッバイオーバーワーク」の第4章に焦点を当て

▲熱い思いを語る青森県本部、岩脇さん

作詞を進めている。組合はなぜ歌うのか。そんな疑問があげられる。組合員が歌う理由、それは歌には人々の共感を得る力があるからだという。言葉よりもリズムやメロディが時代を反映し、心に訴えかける力を持っている。音楽には言葉では伝えきれない力が宿っている。熱い思いを青森県本部、岩脇さんが語ってくれた。

この講座では職場での悩みや葛藤、働き方についてのメッセージを音楽にのせて伝える活動に取り組んでいる。まさに、音楽は労働者の声を広く社会に届ける新しいコミュニケーションになっていく。

今後、歌とリズムを活用して社会問題を伝える方法を学び、新しい活動の幅を広げることができるようになるだろうか。

声を届ける 心をつなぐ

議員の
内閣
組織
活動
報告



岸真紀子 参議院議員（比例代表）に聞く
まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろなお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いたり、現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論議に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、鬼木誠参議院議員と一緒に子ども家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはずは、通常国会では、会計年度任用職員の勤勉手当支給と賃金改定の4月遡及など、制度が

あいまだった点を明確にさせました。また、マイナンバー制度の「自治体」の課題では、デジタル庁や厚労省など自治体の現場を知らない省庁に、具体的な問題解決を求め、改善しました。他方で、入管法改正、LGBT理解増進法など、人権を踏みにじる法案の成立は残念です。

臨時国会では、給与法改正、補正予算、インボイス制度、マイナンバーカードに伴う健康保険証の廃止などが争点です。

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。

養成新聞

第1号
2025年3月2日
発行：松崎

夏期交成成功への道しるべ

座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座

今夏に開催される地連別の夏期交流集会の成功にむけ、自治労本部青年部・女性部は「座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座」を開催しました。2月28日～3月2日にかけて、東京・林野会館を会場に、全国各地の地連から80人が参加しました。

基調講演

社会を支える労働者 団結にむけ決意

世の中には大きな経済格差が存在しています。純金融資産を階層にした時「マス層」（資産3000万円以下の世帯）が平均貯蓄額156万円で全体の78%を占めます。しかし、全体平均貯蓄額を見ると2千877万円になります。経営者等がいる上の階層とマス層では、貯蓄額と非常に大きな格差があることがわかります。



▲講師の伊藤修さん

現代の経済活動は利益追求が中心となっています。利益を追い求められると労働者は無理を強いられます。労



▲職場状況などの議論が盛り上がりました。

座長養成講座

分散会では参加者の職場状況などを持ち寄って議論を行いました。とある分散会では後輩への関わり方について議論しました。「先輩の当たり外れがあると聞く。自分は「当たり前」と言われた」「甘くするだけが良い先輩ではないから

働者に余裕がなくなつたことで、日本では経済衰退や人口減少を招きました。

また、経営者による利益追求の自由が労働者へ支配や抑圧をもたらしています。問題を改善するためには「安さ」に依存する貧困化路線から質の高い社会への転換が必要です。そのためには、やりがいを目指す余裕を持つことが重要です。大きな力を持つ企業と対等になるには「マス層」の私たちが一丸となって声を上げ

賑わう 養成講座

いう議論になりました。その一方で、先輩の優しい気持ちで成り立つOJTという制度はどうなのかという声もありました。

難しい「後輩への指導について、忙しい時には丁寧に関われない」という声がありました。そんな中でも、余裕を持って指導していかねばならないと



▲職場状況をもとに歌詞を確認していました。

音楽活動家養成講座

既存の労働歌をベースに、自分たちの現状や想いを反映させていきます。楽譜と自分たちの職場状況の紙を見比べながらこの表現はどうだろう、「言い回しはこっちの方が良いね」と確認している姿は本物のアーティストのようでした。

ていかなければなりません。私益の追求から、社会の利益追求に向けて、団結しましょう。

現代社会では、働くことへの「責任」が重すぎると感じています。SNSでの炎上や、カスハラにあう様子をよく目にします。日々、重いプレッシャーの中で仕事をしている人が多いと感じています。一方で、スポットワークなど、数日短時間だけ働いて報

編集後記

酬を得る働き方をする人たちがいます。時間拘束等の理由もあると思いますが、「働くことに対する責任が軽い」という理由で選んでいる人も多くとを考えています。不安定な働き方は、より貧困につながってしまうのではないかと思います。

新生活を応援します

在職中の保障に加えて
積み立てタイプの共済もあります

総合共済

団体生命共済

退職者共済

長期共済

税制適格年金

子ども保障満期金付タイプ

住まいる共済

マイカー共済

自賠償共済

火災共済・自然災害共済

こくみん共済〈全労済〉
自治労共済推進本部
全日本自治労労働者共済生活協同組合

ご不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください。

ご契約にあたってはパンフレットをご覧ください。

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

紀伊民報

第1号
2025年3月2日
発行
上田 洸大



▲講演する伊藤修先生

社会的格差の拡大

若年層や非正規雇用者の所得低迷

2025年2月28日に東京都文京区の「林野会館」において、座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座が開催された。初めに、基調講演として伊藤修先生より「閉塞する社会を変える方向」と題して講演があった。日本の平均所得が長年にわたり停滞している中、経済格差の拡大が深刻な社会問題として浮上している。特に若年層や非正規雇用者の所得は低迷している。また、地域間の所得格差も顕著であり、都市部と地方の間での経済的な格差が拡大していると詳述した。

座長
養成講座

公務員職場の実態

人員不足について討論

グループにおいて、各職場における課題や取り組みについて討論を行った。主に、人員不足や職場環境、時間外勤務について話し合った。

グループでは、①人員不足により1人に対する業務量が増加し、日々の業務が回らない。②課によっては住民対応に時間を追

冒頭、伊藤先生は、日本における平均所得が長年停滞しており、経済格差の拡大が深刻な社会問題として取り上げられていると述べた。その背景として、物価高騰などの影響により実質賃金が連続して低下していることが問題

であることや、労働者に無理を強いる日本のシステムが、労働環境の悪化を招き経済衰退に大きく影響を及ぼしていること述べた。併せて、多くの企業がコスト削減を優先し、賃金の上昇を抑制しており、労働者の生活は厳しさを増している。これらの問題は国民生活に直結する重要な課題であり、労働者は賃上げによる実質賃金上昇のため取り組みでいく必要がある。しかし、この課題を

和歌山と東京 車旅

なぜ彼はあえて車で来たのか

和歌山県紀の川市から講座に参加の田中さんは、参加にあたり交通手段に車を選んだ。理由として、ドライブ感覚で走っていればすぐ着くだろうということや、帰り道に静岡県に立ち寄り、

温泉に入るのが楽しみだとのことである。連日東京の夜を満喫し、田中さんの疲労はピークに達している。帰り道は温泉でしっかりと疲れを癒してもいい。



▲議論する田中さん



グループ討論中の様子

新生活を応援します

在職中の保障に加えて
積み立てタイプの共済もあります

総合共済	団体生命共済	退職者共済
長期共済	税制適格年金	子ども共済
住みか共済	マイカー共済	自賠責共済

こくみん共済 **全労済**
全国労働者共済生活協同組合連合会
自治労共済 推進本部
全日本自治体労働者共済生活協同組合

ご不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください。
「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

こくみん共済 NEWS
5121V270

砂丘新聞

第1号
2025年3月2日
発行
なりあい編集部

座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座 基調講演 助け合う社会が暮らしを変える 「平等」「人権人道」「民主主義」の政治を

2025年2月28日(金)から3月2日(日)の3日間、東京都文京区の林野会館において自治労青年部・女性部による「座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座」が開催された。今夏の地連別青年女性夏期交流集会の成功に向け、座長・音楽・教宣の役割をまなび、運動につなげるための討論や制作を実施。集会の冒頭には、埼玉大学名誉教授の伊藤 修講師による基調提起があった。集会運動が目指す到達点とあるべき社会について、伊藤講師からは次のとおり示唆が提示された。

無理を強いる現代社会

日本の世帯の多くは貯金がない。一方、一部の富裕層は多くの富を貯め、さらに年収1億円を超える納税割合は減少する。富裕層の力が政治に強く影響していることが見て取れる。

世の中の中心軸は資本家による利潤の最大化。コストを下げるため「賃下げ」「人員削減」「超過勤務」「労働過密」がされ、労働者に無理を強いる社会となっている。余裕のなさによる職場の〇じも崩壊から低賃金による未婚・人口減少まで、労働者へのしわ寄せは、結果として社会の衰退を招いている。

貧困路線から質の高い社会へ

社会の衰退を脱するためには、「効率化」「低コスト」依存の貧困路線を改める必要がある。



▲ 参加者に社会を変える必要性を訴える伊藤講師

まずは賃上げ。そしてやりがい

追求できる余裕。また、自己責任論ではなく、社会全体で助け合う仕組みが必要。財源は、経済力のある人が社会のために多く負担すべき。助け合いは結果として社会にとって効率的である。我々のような立場の弱い人たちが団結し、質の高い社会を目指すべきだ。

社会全体の利益を追求しよう

私有財産と私益・利潤を追求する自由が、いまの閉塞社会を形成する「諸悪の根源」である。富裕層の利益を守ることを否定し、社会全体の利益を追求する政治に変えていかなければいけない。そして「人間としての対等」「人権・人道」「民主主義」を徹底し、「社会主義」が理想とする社会像を目指すべきではないだろうか。

伝えたいことはなにか

教宣作成担当者で徹底議論



教宣担当者養成講座では、講義、議論、作成の力

を一人一枚作成している。題材は今回の養成講座に関するもので、トッ

▲ 討論を終え執筆に追われる参加者たち

教宣講座

プ記事は基調講演と指定されている。2日目の午前中には、トップ記事の作成について、分散会形式で討論を行なった。

分散会では、講演をも

とに教宣作成者が「読者に伝えたいことはなにか」について議論、講演を聞いて印象に残った部分

を共有することで、読者の目を惹く題材がないか議論したり、「講師は参加

者に何を伝えたかったのか」という視点で、講演の論点整理を行なった。北海道本部本部の松崎さんは「講演をもとに着想した自分の考察もコラム等で記載できると助言を受けた。実践したい。また、講演の狙いは何かを意識した上で講演を聴いている仲間がおり、刺激を受けた。」と議論を振り返った。

声を届ける 心をつなぐ

組織内議員の活動報告



岸真紀子 参議院議員(比例代表)に聞く

まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろなお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いたり、現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論戦に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、鬼木誠参議院議員と一緒に子ども家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはずです。通常国会では、会計年度任用職員の勤勉手当支給と賃金改定の4月遡及など、制度が

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。

養成新聞

第1号
2025年3月2日
発行
川村 小夏

夏期交の成功目指して 全国から仲間集まる

地連別夏期交流集会の成功に向けて、2月28日から3月2日までの3日間、「座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座」を開催した。東京・林野会館を会場に、全国から80人の仲間が参加した。



全国から仲間集まる

埼玉大学名誉教授の伊藤修氏は、「閉塞する社会を変える方向」をテーマに基調講演を行った。講演では、日本企業の経常利益がこの30年間で約3倍に増加したにもかかわらず、

賃金水準が先進国中で特に低いことが強調されていた。特にアニメ業界では、クリエイターたちが最低賃金にも満たない報酬で業務委託されている現実が挙げられた。

労働者に対するコスト削減の圧力が、日本のGDPや国民の平均所得の減少、正規・低所得層の婚姻率の低下、少子化による100万人の人口減少といった社会全体の問題に繋がっている」と指摘。労働者がやりがいを持ち、生活の安定を維持できる職場環境の確保が重要であり、経営者は社会の利益を追求し、経済力に応じた負担をする仕組みが必要だと述べられた。労働者の地位と人権を守るためには、今こそ団結が必要であると強調された。



▲ 基調講演する伊藤 修氏

立憲民主党
参議院議員(自治労組織内議員)

岸まきこ

全世代に対応した
社会保障制度の
充実を

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の擁立を決定しました。

岸まきこ 公式ウェブサイト
kishimakiko.com/

岸まきこ 映写

▶ 職種が近い仲間です論を深めた。



座長養成講座では、事前アンケートを活用し、分散会を実施。生活や職場の課題を討論した。

その課題はなぜ起こる？ 分散会で実態討論

ある分散会で
は休暇の取りにくさについて議論。参加者からは「上の実態が出されていた。司が休暇を取らない。他の分散会では、保育め取りづらい」とや、「現場の人員不足が議論分がない」と仕事は回され、保育士の募集困難

や定着率の低さが報告された。職場課題を現場から聞き取り、改善に努めているが、苦しい？と声をかけてあげたいが、それがプレッシャーになったりしないか不安...と、世代間のコミュニケーションの難しさに悩む仲間の声も聞かれた。

給与振込にも！ 仕送りにも！ 年金受取にも！
東北ろうきんの普通預金口座がおすすめ！

東北ろうきんの
キャッシュカードなら

ATMお引き出し 手数料24時間

0円 実質

ATMお引き出し手数料
『全額還元サービス』

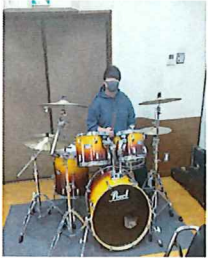
お近くのコンビニエンスストアのATMで
東北ろうきんのキャッシュカードが 24時間365日ご利用いただけます!!

平日 土・日・祝日
お引き出し / ご入金 / 残高照会

セブン銀行 7-Eleven
ローソン銀行 11
イーネット 113
ファミリーマート

※1 システムメンテナンスのため、毎月1日(祝日)の午前1時から午後1時までご利用できません。また、一部店舗でご利用できません。
※2 本邦内のみご利用いただけます。海外からの利用はできません。また、本邦内でも一部店舗でご利用できません。
※3 ATMお引き出し手数料は、ATMから引き出す金額の1%を上限として、1回あたり最大100円を超過するものではありません。

音楽活動家養成講座写真集



講座初日に伊藤修氏による基調講演が行われました。資本金による労働者からの搾取による利益追求が大きな格差を生じさせており、この構造を変えるためには労働者による団結が不可欠とのお話がありました。



▲国内の格差の広がり、労働者が搾取され続けている現状を指摘する伊藤講師

基調講演

今こそ労働者の結束を
利益追求の弊害が労働者に

養成講座新聞

無第1号
2025年3月2日
発行
りんご編集部
大室和也

分散会の様子



座長・活動家・教宣担当者養成講座の開催初日に伊藤修氏による「閉塞する社会を変える方向」と題した基調講演が行われました。伊藤氏からは、「二部の富裕層が日本の純金融資産の大部分を握っており、マス層は貯蓄がないに等しい状況、世の中の格差

座長養成講座から

公務職場多様な働き方着々と
メリットある一方で課題も浮き彫りに

は大きく拡大している。」「この30年間で日本の企業の売上高はほとんど増えていないが、経常利益は3倍、配当は10倍に増えている。一方で人件費は、1.倍にしか増えていない。」といった現状について指摘がありました。これは資本家（＝所有者・経営者）が利益を追求しすぎのあまり、コストカットの方法として①賃下げ、②人員削減、③労働時間延長、④密度アップという労働者から搾取する利潤構造を追求した結果です。私たち公務労働者は社会に必要な公共サービスを提供しているにもかかわらず、搾取され続けているのではないのでしょうか。また、伊藤氏からは、「効率化・低コスト依存症の体質から脱却し、賃上げ・質の高い社会へ軌道変更する必要がある。すなわち賃上げ・やりがい追求できる余裕の獲得、助け合いの原則・必要な財源は経済力に応じて負担する原則の確立が必要。そのためには今こそ労働者の団結が不可欠。強い立場の資本家には労働者の団結にのみよって立ち向かえる」と団結の必要性を説いていました。

座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座とは？

今年の夏に地連別に開催される自治労青年女性夏期交流集会に向けて2/28（金）～3/2（日）の3日間の日程で東京都の林野会館で開催された養成講座です。全国各地から80名の青年女性の仲間が結集し、座長・音楽活動家・教宣班に分かれてそれぞれの学びを深めました。

<講座の日程>

- ・1日目 13:00～17:30 開講、基調講演、各養成講座
18:00～ 夕食交流会
- ・2日目 9:00～17:30 各養成講座
- ・3日目 9:00～12:00 記念講演、分散会、各講座報告、全体集約、閉講

座長養成講座第2班では、公務職場での多様な働き方について分散会が行われていました。分散会メンバーの自治体によりテレワーク、フレックスタイム制度、週休3日制の導入状況は大きく異なっていました。導入が進む自治体の仲間からは、「サテライトオフィスが設置されたことで事務所までわざわざ行かずに仕事ができるようになった」、「テレワークは子育て世代には大きなメリットがある」といった好意的な意見が出されていました。一方で、「週休3日制が導入された自治体の仲間から出勤日の労働時間が長く

日比野新聞

第1号
2025年3月2日
発行
日比野編集部

団結が現状を変える力

社会分析と未来への提言



▲現在社会の問題と、現状を変える方法について語る講師の伊藤修先生

2025年2月28日、自治労の青年部と女性部を対象とした「座長・音楽家・塾員担当 養成講座」が開催され、埼玉大学名誉教授の伊藤修先生による講演が行われた。

まず、現在の社会は貧富の格差が拡大し、富裕層が得をする構造にあり、平均貯蓄額が2千万円である一方、3千万円以下のマス層が78%を占める。また、婚姻率の低下と人口減少が強調され、社会が百万人減少ペースで推移している現状について説明がなされた。このままでは社会の崩壊が懸念されるといふ。

先生は、効率化と低コスト依存の貧困化路線を見直し、質の高い社会への転換を提唱した。具体的には、賃金の引上げ、やりがいのある仕事の創出、公共サービスの充実が必要であると強調した。その実現には、労働者の団結が不可欠であり、買収手独占力のある雇い側と対等に近づく必要があると説いた。

講演後の分科会では、「団結が現状を変える力」であり、今回の公演で考えるきっかけとなった。団結のためにまず知ることが大切」との意見が寄せられた。

今後、青年部、女性部が現状を理解し、団結の重要性を再認識することが期待される。

グッバイオーバーワーク 第4章

超過労働の思いを歌詞に



「音楽活動家養成講座」には、全国各地から8名が集まり、新たな歌詞の制作に挑戦した。

今回の楽曲制作は、過去の音楽活動家養成講座で作詞作曲された「グッバイオーバーワーク」の4番の歌

声を届ける 心をつなぐ

組織内
国会議員の
活動報告



岸真紀子 参議院議員（比例代表）に聞く

まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろな方のお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いたり、現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論議に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、鬼木誠参議院議員と一緒に子ども家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはずです。

通常国会では、会計年度任用職員の勤労手当支給と賃金改定の4月適及など、制度が

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。

詞を新たに作ることがテーマとなった。この曲は、超過労働への不満や心情を表現するもので、多くの組員に共感されている。取材に応じた参加者の一人は、「現在の経験に基づいて新しい歌詞を作りたい。異動に伴う新たな仕事の習得が大変で、覚えるまで超過労働が増える現実を歌詞に反映したい」と語り、「言葉だけでは伝わ

りにくいことも、歌にすることでより強く伝わる力がある」と述べた。歌詞制作においては、メロディと歌詞の文字数を合わせるのが難しく、試行錯誤が続いているようであった。

最終日の3月2日には、新たな歌詞の披露がある。自治労の組員が共感できる歌詞作りを期待したい。

座長養成新聞

第1号
2025年3月2日
発行
豊田編集部

基調講演

座長 音楽活動家 教宣担当者 養成講座 閉塞する社会を変える方向

2月28日～3月2日林野会館で開催し、80人の仲間が参加しました。埼玉大学名誉教授の伊藤修さんの講演を受けました。私たちの生活に「明るい出口が見えない!」とみんな感じています。この社会を変えるにはどうすればよいのでしょうか?



優しい口調で熱弁する 伊藤修さん

【現代の社会の問題】

金融投資による利益を貯めて太らせる人(所有者・経営者)と、働く人の(労働者)格差が顕著になっています。利潤(金もうけ)が企業の最優先事項となり、コストカットを追求しています。そんな中で労働者は①賃下げ ②人員削減 ③労働時間延長 ④労働密度アップに苦しんでいます。これは、私たち公務員職場にも言えることです。職場の中で、聞こえがよい「自己責任」「やりがい」を押し付けられていますか?

この状況を30年間積み重ねた結果、労働者の生活の質は低下しました。経済全体の活力が失われ、コストカットが社会を破壊させるまでに至っているのです。

【変えるためには】

諸悪の根源は、私有財産と企業の私益(利潤)の追求の自由で、社会の支配や抑圧をもたらしています。雇う側は利潤を最優先するので、労働者側は団結によってのみ対等に近づけます。また政府と企業が一緒になって労働条件の改善を図ることが求められます。

労働者の生活の質を向上させるためには、政治も変える必要があるということです。そのためには、労働組合の団結が不可欠です。一人の力では立ち向かえませんが、日本の経済全体の活力を回復させるために、一緒に頑張りましょう!

参加者した仲間に関わってみました!



第6分散会
高知県本部 山口力人さん

Q 職場の中で、「自己責任」「自己責任」を強いられませんか?

A 若い人が責任ある仕事をまかされているのに賃金が低い。人に教える余裕がなくなっています。その上、システムを入れて人員を減らされ、人員と業務量が見合っていない。人事評価制度は頑張った

人が評価されるので賛成派でした。

Q 分散会に参加してその背景を気づいたことや学んだことはありますか?

A 人事評価は職場の分断に繋がっています。全員が同一の評価がされているか考えると、上司や部署によって違っているので評価制度は良くないです。評価制度が入ったり、人員が少なく責任ある仕事を

させたり、もつと仕事をさせようという当局の狙いが分かりました。県本部の中で学習し共有していくことによって人員などの問題に対して取り組んでいきたいです。



声を届ける 心をつなぐ

組織内
国会議員の
活動報告



岸真紀子 参議院議員(比例代表)に聞く まだまだ「やらねばならない」という気持ちで溢れています

現在、国会は閉会中ですので、いろいろな方のお話を聞いたり、国会見学に来ていただき意見交換会を開いたり、現場の声を聞くことで、政策にどう反映するかを考え、国会論戦に備えています。子どもへの性暴力を防止する「日本版DBS制度」について先日、岸木誠参議院議員と一緒に子ども家庭庁から説明を受けました。近い将来、課題になるはずで、通常国会では、会計年度任用職員の勤勉手当支給と賃金改定の4月期及など、制度が

あいまいだった点を明確にさせました。また、マイナンバー制度の「自治体」の課題では、デジタル庁や厚労省など自治体の現場を知らない省庁に、具体的な問題解決を求め、改善しました。他方で、入管法改正、LGBT理解増進法など、人権を踏みにじる法案の成立は残念です。臨時国会では、給与法改正、補正予算、インボイス制度、マイナンバーカードに伴う健康保険証の廃止などが争点です。

自治労大会では第27回参議院選挙への推薦決定をいただきました。日々、新たな課題が生じています。まだまだ、やるべきことがあり、やらねばならない、頑張りたいという気持ちで溢れています。